



株式会社介祉塾 代表取締役

砂 亮介 さん

ケアテック賞



病院・施設のベッドの利用状況を共有する クラウド型 IT サービス Bedycle (ベディクル) の事業化

住 所 大阪府大阪市北区梅田 1-11-4-1000

T E L 06-6136-5381

U R L <https://kaishi.co.jp>
<https://bedycle.com>

創 業 2017年11月1日

事業内容 病院・施設間でベッドの空き状況を共有するクラウドサービスの提供、
経営コンサルティング、その他経営支援業務



🔥 持続可能な医療介護を実現させたい

砂亮さんは、大学を卒業後、ボランティアや海外放浪などを経て、2007年、大阪府にて介護会社を創業し、ソーシャルワーカーとして地域福祉に従事してきました。その後、2017年に新たに株式会社介祉塾を設立します。中小企業診断士、社会保険労務士、社会福祉士などの資格を持ち、介護の分野で起業家としての道を進みます。

その中で砂さんは、患者にとって不必要なサービスを病院・施設の都合で提供されている実情を数多く見てきました。このままでは医療介護の持続性が確保されず、患者にとっても好ましくない事態が続いてしまうと痛感し、限りある医療介護資源の有効活用のため何かできないかと思う

ようになりました。そうした現状について調査をしたところ、病床の有効活用が大きな課題であることを知り、病院・施設のベッドの利用状況を共有するクラウド型 IT サービス「Bedycle (ベディクル)」の立ち上げに動きまします。

プロトタイプ開発から試行錯誤を続け、いよいよ地域への展開へと歩みを進めたところで、チャレンジのために選んだ場所は福島県でした。福島県は全国的に見て、医療過疎化がもっとも進んでいる地域の一つと読み取った砂さん。地域の健康福祉を支えている方々とともに、持続可能な医療介護を実現させる活動を行っていききたいというのが、揺るがぬ思いです。

🔥 医療介護の限られた資源を有効に活用するために

砂さんが危機感を抱く医療介護の資源とは、どのような状況にあるのでしょうか。調べによると、半数以上の病院が赤字経営となっており、病院が倒産することで地域に住む方々に医療が提供されなくなる可能性があります。また今後ますます高齢者が増加することで医療・介護給付費が膨れ上がり、財政悪化も懸念されます。

病院・施設は患者の症状の治癒状況に応じて機能分化しており、患者は治癒状況に応じて高度急性期・急性期・回復期・慢性期・介護老人保健施設・介護施設などへと順に転院する仕組みとなっています。他方で診療報酬は、患者の入院期間が長くなるほど1日当たりの報酬単価が下がる仕組みとなっており、病院・施設はいかにベッドの利用効率を高めるか(ベッドコントロール)が収益を確保するうえで重要となります。しかしながら病院・施設の担当者は電話で空き状況や受入条件について確認しており、担当者が不在であったり確認が必要であったりすると、タイムラグが発生し入院期間が延びることが多々あります。そのため十分に収益を確保できない状況となっています。

そこで地域の病院・施設のベッドコントロールをクラウド上で一元管理できるようになれば、患者の転院を効率化させるだけでなく、病院・施設の経営の安定にもつながり、地域の医療介護資源の有効活用にもなると、砂さんは考えます。その先にはデータベース化や患者の転院計画書をク

ラウド化することで、より地域の医療介護資源の有効活用に貢献したいと考えています。

福島県では今後、人口減少が進むため病床数は余剰が出ると予測される反面、人口10万人あたりの医師数は全国平均を下回っており、病床削減すると医療過疎化が一層進む可能性が高いのではないかと、砂さんは危機感を持っています。SDGsで謳われている「病院へのアクセス」を維持するためにも、福島モデルの創出に向けた行動計画の策定と実行に向けて、砂さんは県内での「Bedycle」の浸透に力を尽くしています。

